

平成30年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

地域社会に貢献する、自立した人を育てる高校

地域社会とのつながりや人との出会い、多様な学びを通じて、主体的に学び、自らの人生を切り拓くたくましさを育み、地域社会を支える人づくりをめざす。

【育てたい力】

- 多様な価値観を尊重し、違いを豊かさにして、協働できる力
- 自分の考えを的確に人に伝えたり、傾聴できるコミュニケーション力
- 地域や社会に関心を持ち、参画、貢献しようとする意欲と実行力
- 豊かな人権感覚・人権意識

2 中期的目標

1. 新たなステージへの深化

「多様性の尊重」「地域性の重視」を特長とする高校としての実績、強味を最大限生かし「教育を通じてよりよい社会を創る」という目標を共有し、社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む」とする「社会に開かれた教育課程」の理念を追求する普通科専門コース再編に取り組む。

将来構想検討委員会を開催し、普通科専門コースにおけるカリキュラム・教育内容の充実に取り組む。

新たな学校像が地域の中学校や教育関係者、中学生、保護者に共有されるよう、丁寧で広範な広報活動に取り組む。

2. 確かな学力の育成と進路実現

ア 授業公開、研修、授業アンケート（年2回）、研究授業を連動させ、年間の授業改善サイクルを充実させる。

ユニバーサルデザインを意識した教育環境の整備、わかりやすい授業づくりに取り組む。

「主体的・対話的な深い学び」を追求し、真摯に授業改善に取り組む。

教員のニーズに応じた研修の充実に努める。

教職員の「専門性」の向上「同僚性」の発揮を促進し、「ストレス」の少ない「働きやすい」「働きがいがある」職場づくりに取り組む。

イ 「思考力」「判断力」「表現力」「学びに向かう力」「人と協働できる力」の育成

生徒の興味や関心を喚起し、社会と繋がる意識を育てる課題解決型、探究型の「思考力」「判断力」を育成する授業づくりに取り組む。

普通科総合選択制高校の特色であるエリアの学びを共有、発信する「エリア発表会」（2年次）を継続し、普通科専門コースにおける「発表」の機会を検討し、「表現力」の育成に努める。

「総合的な学習の時間」やLHR、学校行事を通じて、「自己・他者・社会の在り方⇒生き方・進路に関連付ける」=「学びに向かう力」や

「協働できる力」を育てる。

ウ 学年の学力生活実態調査結果や定期考査の振り返りを活用し、進路への意識づけ、学習の充実に努める。

学年の進路指導部、学習指導部の連携のもと、早い時期から進路に向けた適切な学習指導を継続的に行う。

「進路実現満足度100%の学校」をスローガンに、進路について考える機会を増やし、丁寧な進路指導・学習支援を通じて、生徒一人ひとりにとって満足度の高い進路実現をめざす。

a. 生徒向け学校教育自己診断「エリア・コースや授業は将来の役に立つ」、b. 普総選アンケート（3年）「進路は選択エリアと関連があった。」の各項目について a. 90%、b. 80%をめざし、2019年度までその水準を維持する。

3. 豊かな人権感覚・人権意識の醸成

ア 学校行事やクラス活動における生徒相互の関わりや協働性を重視し、自尊感情や生徒相互の信頼感を醸成する。

イ 生徒の実態に即した課題を設定し、当事者の話を聴くなど、共感に基づく人権学習を通じて、豊かな人権感覚を醸成する。

ウ 実習や体験、発表、地域活動への参加等を通じて自己有用感や自尊感情を醸成し、公共心やボランティア等社会貢献への意識を育てるとともに、よりよい社会の創り手となる意欲や行動力を育成する。

4. 「ともに学び、ともに育つ」教育、生徒支援の充実

ア 人権教育推進委員会、教育相談委員会、支援教育コーディネーターの連携を密にし、校内の教育相談・支援体制の充実に努める。

高校生活支援カードを有効に活用し、支援の必要な生徒の早期発見、実態把握に努め、必要な支援体制をつくる。

状況把握、経過観察、情報共有に努める。

必要に応じてケース会議を適宜開催し、外部機関や専門家とも連携して、生徒理解を深め、支援の充実に努める。

イ 共生推進教室の取組みの充実に努め、「ともに学び、ともに育つ」教育を推進する。

共生推進教室で学ぶ生徒への適切な指導、必要な支援を通じて、自己理解と社会参加への自信、就労への意欲を育てる。

共生推進教室で学ぶ生徒との日常的な交流を通じて、全ての生徒に障がいのある人への理解、共生の意識を育む。

3年卒業時、共生推進教室で学ぶ生徒の就労100%をめざす。

5. 規範意識の醸成と自主性・主体性の育成

ア 遅刻、頭髪、服装、原付、あいさつ、清掃等の指導等、基本的生活習慣やマナーの確立を通じて、社会性を育てる。

イ 部活動加入を積極的に奨励するとともに、生徒会・委員会活動を活性化し、教育活動のあらゆる機会において生徒の自主性・主体性を引き出す。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成30年12月実施分] 数値はH30の肯定的評価 < 【 】 内はH29の肯定的評価 >	学校運営協議会からの意見
授業改善 「授業はわかりやすい。学習意欲が高まる。」 生徒 63.0% 【65.3%】 1年 64.6% 【59.6%】 2年 58.1% 【57.9%】 3年 66.6% 【76.3%】 教員 94.9% 【97.6%】 「授業での生徒の学力を伸ばす工夫。」 生徒 67.0% 【71.8%】 1年 72.6% 【70.1%】 2年 61.4% 【60.8%】 3年 70.8% 【81.9%】 教員 94.7% 【95.2%】 「授業は静か。勉強に集中できる。」 生徒 67.4% 【68.5%】 1年 72.6% 【72.2%】 2年 68.2% 【56.7%】 3年 60.8% 【74.7%】 教員 94.8% 【100.0%】 「生徒の学力向上に熱心な先生が多い。」 生徒 65.3% 【68.8%】 1年 64.3% 【65.1%】 2年 63.9% 【60.5%】 3年 67.8% 【78.4%】 教員 89.5% 【100%】	第1回7月7日(土) ●修学旅行の平和学習について。 → 1年の時にしらべ学習をさせている。人権HRで沖縄戦について学習したい。 ●授業力向上の具体的な取り組み。 → 昨年度の教職員研修では授業力改善についての講義をしてもらった。今年度も授業力改善の取り組みを予定している。 ●外国にルーツのある生徒について。外国人市民の数が右肩上がり。富田林の色々なところで外国にルーツのある人たちが働いていることを教育活動に反映させてほしい ●プロジェクト等ICT活用について → ほとんどの教科、先生によって活用されている。子供たちにとっても文章だけでなくすんなりと頭に入るようだ。 ●人権問題の理解について。「相談に応じてくれる」の数字は上がっているのは人権教育の取り組みが進められている結果だろう

府立金剛高等学校

<p>学校の満足度 「金剛高校に満足している。」 生徒 80.2% 【85.7%】 1年 84.1% 【82.6%】 2年 75.0% 【76.2%】 3年 81.1% 【96.2%】 「エリア・コースや授業は将来の役に立つと思う。」 生徒 84.2% 【87.6%】 1年 87.9% 【90.5%】 2年 82.1% 【83.2%】 3年 84.1% 【88.8%】</p> <p>☆「普通科総合選択制高校アンケート」(3年) 「普総選高校で学んでよかった」 86.6% 【93.0%】 「卒業後の進路は自分が選択したエリアと関連があった」 75.2% 【74.4%】</p> <p>安全で安心な居場所、クラスづくり 「クラスは一人ひとりが大事にされ話しやすい。」 生徒 81.6% 【82.5%】 1年 80.7% 【79.9%】 2年 82.5% 【83.3%】 3年 81.5% 【84.2%】 「先生は問題を見逃さず親身に相談に応じてくれる。」 生徒 72.8% 【80.7%】 1年 72.5% 【75.7%】 2年 69.3% 【74.0%】 3年 77.0% 【89.9%】</p> <p>人権問題への理解、社会的課題への関心 「人権を学ぶ機会と人権問題への理解。」 生徒 88.1% 【87.5%】 1年 94.1% 【90.8%】 2年 81.1% 【73.9%】 3年 88.4% 【94.5%】 「総合等での新しい社会的課題を学ぶ機会があった。」 生徒 83.2% 【82.3%】 1年 92.4% 【81.9%】 2年 77.2% 【73.3%】 3年 80.2% 【89.4%】 「HRや発見(総合)で生き方や将来を考える機会があった。」 生徒 85.3% 【88.8%】 1年 92.7% 【90.5%】 2年 75.4% 【80.3%】 3年 87.1% 【94.1%】</p> <p>☆3年間の人権意識の変化を比較した「人権意識調査」(3年) 「人権に関心を持っている。」 3年次 80.1% 【83.7%】 ← 1年次 66.2% 【65.8%】 「自分を大切にしている気持ちが高まった。」 3年次 70.4% 【76.0%】 ← 1年次 72.8% 【70.8%】 「人間関係の大切さを学んだ。」 3年次 88.1% 【89.5%】 ← 1年次 95.4% 【92.2%】 「差別的な言動を見聞きした時、どのような態度をとるか。」 ○『差別を指摘して話し合う。差別はいけないと伝える努力をする。』 3年次 50.9% 【57.3%】 ← 1年次 46.9% 【60.3%】 ○『何もせずに黙っている。』 3年次 14.8% 【14.0%】 ← 1年次 15.9% 【13.7%】</p> <p>進路指導 「進路について学校は必要な情報や機会を提供している。」 生徒 90.1% 【90.9%】 1年 93.1% 【90.5%】 2年 85.2% 【86.3%】 3年 92.1% 【94.8%】 「放課後や土曜日、長期休業中の講習、校内模試など進路実現に向けて取り組んでいる。」 生徒 82.9% 【84.6%】 1年 81.5% 【78.9%】 2年 79.0% 【80.7%】 3年 88.2% 【92.0%】 「進路相談やHRなどで熱心に進路指導している。」 生徒 81.2% 【80.1%】 1年 82.1% 【72.7%】 2年 77.5% 【77.2%】 3年 84.0% 【88.6%】</p> <p>生徒指導 「学校生活全体の指導は適切である。」 生徒 72.2% 【78.7%】 1年 72.2% 【77.5%】 2年 67.5% 【72.8%】 3年 77.3% 【84.1%】 「遅刻、頭髪、服装、原付等の指導は適切である。」 生徒 60.3% 【67.1%】 1年 61.8% 【66.7%】 2年 58.6% 【65.2%】 3年 60.5% 【68.9%】</p>	<p>●これからは小学→中学→高校などの連続を意識すること、保護者、地域の教育力も必要となる。</p> <p>第2回 10月22日(土)</p> <p><地域実習「秋まつり」について> →1年生が、普通科専門コース選択制に変わる。教員数や授業数変動する。 →現状通りは厳しい。形は変わっても残す方向で考えている ●障がい者とかかわることのできる、よいイベント。縮小するのはもったいない。いろいろな人とつながりを持てる機会を確保してほしい。 ●残す判断はすごい。縮小してもやってほしい。</p> <p><生徒の自己肯定感が低いことについて> ●生徒一人一人は、周りの状況や人間関係を把握しているが、それを発信することが苦手である。 ●外での行事や習い事で成功体験できれば、学力以外の評価も大切。 ●何かをする、その行為が次につながる。結果のみでなく何をしたか、何を得たかを大切に。 ●成功体験も大切だが、失敗から学べることもある。難しすぎず、簡単過ぎない課題が必要。</p> <p>第3回 2月2日(土)</p> <p>●台風などの災害時の連絡方法について、もっと早く連絡できないか。 →前日に、生徒には、翌日の災害時の対応知らせているが、保護者に伝わっていない。 地震などの災害時の安否確認については、府教育庁としても、案を紹介しているが、これといった方法は確立されていない。 →災害時の対応について、今後とも生徒に注意喚起し、安否確認の方法も模索していきたい。 ●修学旅行の時の大きな荷物の取り扱いについて、事前に現地に送ったり、現地から自宅に送る方法は、今後ともそうするのか。 →38期生が、そうした方法を取ったのは、飛行機の発着便の都合でやむを得なかった。もしそうでなければ、集合時間が始発でも間に合わないところであった。この方法については、賛否両論あった。今後検討して行く。 ●学校教育自己診断について、保護者の回収率が高く、自由記述欄も、ざっくばらんに学校に対する要望を多く書いてくれているのはよいこと。 →それだけ学校に期待してくれていると思われ、改善すべき点は改善して行きたい。また、校則や文化祭や体育祭の在り方などの生徒からの要望は、生徒たち自身が、生徒会などの自主活動を通じて、変えていく主体として、生徒の主体性を伸ばして行きたい。 ●1/28(月)の葛城中学校2年生の体験授業ありがとうございました。この時期に金剛高校で体験授業を2年生全生徒にやることは、とても意義のあること。生徒たちの感想文にもよく表れている。また、葛城中学校の教職員にとっても地元校の位置づけが再認識できて、とてもよかった。今後ともよろしくお願いいたします。</p>
---	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1. 新たなステージへの深化	「多様性の尊重」「地域性の重視」を特長とする高校としての実績、強味を最大限生かし「社会に開かれた教育課程」の理念を追求する普通科専門コース再編に取り組む	将来構想検討委員会を開催。 普通科専門コースにおける、カリキュラム、LHR・総合の計画、行事等の精選など、教育活動の充実を図る。	将来構想検討委員会の検討内容を運営委員会、職会、学校運営協議会に報告し、現在及び金剛高校の将来像に対する肯定的評価が多数を占めること。	4月以降将来構想検討委員会を開催。21回開催(1/4現在)。コースガイドブックの検討、総合的な学習の時間2年次の検討、「エリア発表会」の後続の検討、実習の整理・調整、人数減による分掌の統合等の課題対応、高大連携について、トータルステップアッププランの改定、教室配置についてなどについて検討し、運営委員会、職員会議、学校運営協議会に報告。(◎)

府立金剛高等学校

<p>2. 確かな学力と進路実現</p>	<p>ア わかりやすい授業づくり</p> <p>イ 「思考力」「判断力」「表現力」「学びに向かう力」「人と協働できる力」の育成</p> <p>ウ 地域と連携しての交流、体験学習学習成果の発信</p> <p>エ 進路に向けた意識の醸成</p>	<p>ア. 授業改善サイクルの充実を図る。年2回の授業アンケートだけでなく、生徒との対話を通じて授業改善に努める。 授業改善研修の充実。 授業公開、各教科での研究授業の実施。 「主体的・対話的な深い学び」を追求した授業改善。 授業交流による授業改善の促進。</p> <p>教職員の「専門性」の向上「同僚性」の発揮を促進し、「ストレス」の少ない「働きやすい」「働きがいがある」職場づくりに取り組む</p> <p>イ. 「主体的で対話的な深い学び」を意識した課題解決型・探究型の授業を実施し「思考力」「判断力」を養う。 各エリアでの学習の充実を図り、エリア発表会等を通じ「人と協働する力」「表現力」を養う。 「総合的な学習の時間」、LHR、学校行事を通じて「学びに向かう力」「人と協働する力」を育成する</p> <p>ウ. 特色ある授業や取り組みでの地域の学校、施設、団体との交流、体験を継続、推進する。生徒の成長や学習成果を地域に発信する。 発達と保育 : 保育所での実習 保育音楽 : 保育所交流 進路指導部 : 幼稚園交流 社会福祉基礎 : 小学校の授業見学・交流 福祉施設との交流 手話・点字 : だいせん高等聴覚支援との交流 生活文化エリア : 保育所交流 幼稚園交流 秋まつり (障がい者の余暇活動支援) 理数科学エリア : わくわく実験室 (小学生4-6年対象) 等</p> <p>エ. 各学年の進路指導部と学習指導部の連携を軸に生徒情報や進路課題を共有し、1年次から、進路を考えさせるキャリア教育に取り組み、進路に向けた意欲を育てる。</p>	<p>ア. 生徒向け学校教育自己診断 「わかりやすい授業」【65.3%】→66%、「学力を伸ばす工夫」【71.8%】→72%、「授業が静かで集中できる」【68.5%】→70%、「生徒の学力向上に熱心な先生が多い」【68.8%】→70.0%、「授業改善に積極的」【70.9%】→73% 教職員向け学校教育自己診断 「わかりやすい授業」「学力を伸ばす工夫」95%超え、「お互い協力し合う」85%超え</p> <p>基準値 総合健康リスク 100 上司のサポート 7.5 同僚のサポート 8.1</p> <p>イ. 生徒向け学校教育自己診断 「エリア・コースや授業は将来の役に立つ」【87.6%】→90%、「HR や「発見」などで、生き方や将来について機会がある」【88.8%】→90% 普総選択アンケート (3年) 「進路は選択エリアと関連があった」【74.4%】→80%を目標に取り組む</p> <p>ウ. 生徒向け学校教育自己診断 「授業や部活動で他の学校や地域の人々に関わる機会」【78.6%】→80%</p> <p>エ. 生徒向け学校教育自己診断 「進路に必要な情報や機会の提供」【90.9%】→90%以上、「進学講習や校内模試等進路実現の取組み」【84.6%】、「進路相談やLHRでの熱心な進路指導」【80.1%】→それぞれ80%以上</p>	<p>ア. 8月大正高校大西校長より「これから求められる学力とリーディングスキル」のテーマでの研修。公開授業月間時、校長による授業見学の実施、授業改善に向けた助言。授業アンケート結果に基づく各自、教科で授業の振り返り、授業改善策を生徒にフィードバック。 伸び悩みの傾向。切磋琢磨による専門性と同僚性の向上が課題。(△)</p> <p>生徒向け学校教育自己診断 「わかりやすい授業」63.0%【65.3%】 「学力を伸ばす工夫」67.0%【71.8%】 「授業が静かで集中できる」67.4%【68.5%】 「生徒の学力向上に熱心な先生が多い」65.3%【68.8%】 「授業改善に積極的」69.3%【70.9%】</p> <p>教職員向け学校教育自己診断 「わかりやすい授業」94.9% 「学力を伸ばす工夫」94.7% 「お互い協力し合う」76.9%</p> <p>健康リスクは若干増加したが、普総選2学年、普通科専門コース1学年と改編途上の過渡期で教員数が減少する中で、よく踏んばっている。(○)</p> <p>ストレスチェック結果 総合健康リスク 102【100】 上司のサポート 7.7【7.5】 同僚のサポート 7.9【8.2】</p> <p>イ. 普通科総合選択制によるエリア制から普通科専門コース制への過渡期において、金剛高校のミッションを再共有する必要がある。(○)</p> <p>生徒向け学校教育自己診断あ 「エリア・コースや授業は将来の役立つ」84.7%【87.6%】 「生き方や将来について機会がある」85.3%【88.8%】</p> <p>普通科総合選択制高校アンケート (3年) 「進路は選択したエリアと関連があった」75.2%【74.4%】</p> <p>ウ. 金剛高校設立の経緯や本校の特色から地域連携は、本校の教育活動の重要な柱である。しかし現在改編途上であり、これまでの取組みの縮小を余儀なくされているが、改編後の地域連携の在り方を教職員で共有することが必要である。(○)</p> <p>生徒向け学校教育自己診断 「他の学校や幼稚園・保育園や地域の人々に関わる機会」76.2%【78.6%】</p> <p>エ. 目標値はどれも達成。今後とも生き方としての「進路」の観点から、社会で求められる資質・能力の育成と学力向上とタイアップしつつ生徒の進路実現に学校全体として取り組む。(◎)</p> <p>生徒向け学校教育自己診断 「進路に必要な情報や機会の提供」90.1%【90.9%】 「進学講習や校内模試等進路実現の取組み」82.9%【84.6%】 「進路相談やLHRでの熱心な進路指導」81.2%【80.1%】</p>
----------------------	--	---	--	---

府立金剛高等学校

<p>3. 豊かな人権感覚の醸成</p>	<p>ア 生徒相互の関わり、協働性の重視 自尊感情や相互の信頼感を醸成する人権学習、総合学習、学校行事</p>	<p>ア. 新入生オリエンテーション（1年）、クラス スタートアップ、個人面談、遠足に至る年度 当初クラスづくりを通じて、安心感のある 高校生活を支援する。 行事等のクラス活動を通じて、生徒相互の 関わりや協働性を育てる。</p> <p>イ. 生徒の実態に即し、当事者との出会いや体 験等、生き方を考えさせる人権学習、総合 学習を企画し、実施する。 人権研修の充実。</p>	<p>ア. 生徒向け学校教育自己診断 「金剛高校に満足している」 【85.7%】「一人ひとりが尊重 され気軽に話せるクラス」 【82.5%】→それぞれ85% 普総選択アンケート（3年） 「普総選で学んでよかった」 【93.0%】→90%超えを目標に 取り組む</p> <p>イ. 生徒向け学校教育自己診断 「人権問題の理解」【87.5%】、 「社会の新しい課題を学ぶ機 会」【82.3%】、→2つの項目と も83%を越え 人権意識調査（3年） 「人権に関心を持っている」、 「自分を大切にしている気持ちが 高まった」、「人間関係の大切さ を学んだ」「差別的な言動を見 聞きした時の態度」について 『差別を指摘し話し合う。伝え る努力をする』『何もせずに黙 っている』という5項目の1年 からの上昇を目標に取り組む</p>	<p>ア. 生徒向け自己診断については、若干減少が見 られることが懸念されるものの、生徒たちの日頃 の頑張りを見ると、金剛高校に愛着を持って学校 生活を送っている。今後は一人ひとりの生徒の人 格の尊重を核として、生徒と教師との関わり、生 徒と生徒とのつながりの質をどう高めるか、知 識・スキルの提供に加え、OJTによる専門性の 向上が必要。(○)</p> <p>生徒向け学校教育自己診断 「金剛高校に満足しているか」 80.2% 【85.7%】 「一人ひとりが尊重され気軽に話せるクラスか」 81.6% 【82.5%】</p> <p>普通科総合選択制高校アンケート（3年） 「普総選高校で学んでよかった」 86.6% 【93.0%】</p> <p>イ. 人権問題に関する知的理解は、人権学習を通 じて、高まる傾向であることは大いに評価でき る。しかし、それと自分の生き方や行動につなげ るまでになることが、今後の課題である。(◎)</p> <p>生徒向け学校教育自己診断 「人権問題の理解」 88.1% 【87.5%】 「社会の新しい課題を学ぶ機会」 83.1% 【82.3%】</p> <p>人権意識調査（3年）：1年次と3年次の比較 「人権に関心を持っている」 13.9%↑：3年次80.1%←1年次66.2% 「自分を大切にしている気持ちが高まった。」 2.4%↓：3年次70.4%←1年次72.8% 「人間関係の大切さを学んだ。」 7.3%↓：3年次88.1%←1年次95.4% 「差別的な言動を見聞きした時、どのような態度 をとるか。」 ○『差別を指摘して話し合う。伝える努力をす る。』 4.0%↑：3年次50.9%←1年次46.9% ○『何もせずに黙っている。』 1.1%↑：3年次14.8%←1年次15.9%</p>
----------------------	---	---	--	--

府立金剛高等学校

<p>4. 「ともに学び、ともに育つ」教育、生徒支援の充実</p>	<p>ア 生徒の実態把握ときめ細やかさや支援、指導</p> <p>イ 共生推進教室の教育内容の充実、ともに学びともに育つ教育の推進</p>	<p>ア. 生徒支援カード(1年生)の情報を学年会議、教育相談委員会で共有し、支援の必要な生徒の早期の発見、実態把握に努め、必要に応じた支援体制をつくる。</p> <p>イ. 教育相談委員会、人権教育推進委員会で生徒状況の経過観察を行い、学年と協議の上必要に応じてケース会議を開く。外部機関や専門家とも連携して、支援にあたる。共生推進教室の生徒についても、共生推進コーディネーターと密に連携し、必要に応じて適切な支援、ケース会議の開催を行う。たまがわ高等支援学校と連携して、共生推進教室の生徒一人ひとりの教育的ニーズを把握し、適切な指導や必要な支援を行う。</p> <p>ウ. 本校で学ぶすべての生徒に共生推進教室の意義を周知し、「ともに学び、ともに育つ」教育を推進する。</p> <p>ウ. 共生推進教室の生徒が安全で安心して学校生活を送る。不登校や長期欠席がなく、いじめなどの人権侵害事象がない。また、共生推進教室の生徒が、クラス活動、学校行事に積極的に参加し、周りの仲間と温かい関係を結ぶことができる。卒業時の就労先の開拓。</p>	<p>ア. 生徒向け学校教育自己診断「問題を見逃さず相談に応じてくれる」【80.7%】→80% 越え</p> <p>イ. イ. 教育相談委員会、人権教育推進委員会のコンスタントな開催。その中で、配慮や支援が必要な生徒、社会的に立場のある生徒、外国にルーツを持つ生徒等の状況確認。支援が必要なケースに関しては校内関係部署及び外部機関との適切なケース会議の開催。</p>	<p>ア. 生徒を背景まで含めて理解する姿勢、生徒の発するシグナルを素早くキャッチして、情報共有しチームとして迅速かつ適切に指導・援助できる校内体制ができていることが本校の「よさ」であるが、低下傾向が気になる。今後は人権教育委員長、教育相談委員長、支援教育コーディネーターと学年団、分掌との連携による、指導・支援体制を充実させていきたい。(△)</p> <p>生徒向け学校教育自己診断 「問題を見逃さず相談に応じてくれる」 72.8% 【80.7%】</p> <p>イ. 不登校や虐待など様々な課題を抱える生徒について、本校のSCや教育センター教育支援センター、関係中学校、行政機関、民間支援団体等の関係機関と連携・協力し、チームとして適切な支援ができた。(◎)</p> <p>ウ. 共生推進教室4年目になるが、一定の体制づくり、学校全体としてのコンセンサスは確立された。共生推進教室の生徒の不登校やいじめはない。(○)</p> <p>文化祭や体育祭等の学校行事、授業や部活動など、共生推進教室の生徒が、積極的に参加できた。また、卒業時2名の就労先が決定し、1名が就労移行の施設に進路が決定できた。(○)</p>
<p>5. 規範意識の醸成</p>	<p>ア 基本的生活習慣の確立</p> <p>イ 部活動の促進及び生徒会活動の活性化</p>	<p>ア. 生徒指導部と学年が一体となって遅刻、頭髪、服装、原付等の指導を行う。あいさつ、特に朝のあいさつの励行を全教員で推進する。</p> <p>イ. さまざまな機会を通じて、新入生への部活動への参加を積極的に推進するとともに生徒会執行部を中心に生徒会活動を活性化させる。</p>	<p>ア. 年間遅刻者 1,000 以下を目標に取り組む 生徒向け学校教育自己診断「学校生活全体の指導は適切か」【78.7%】→80%、「遅刻、頭髪、服装、原付等の指導は適切か」【67.1%】→70%</p> <p>イ. 生徒向け学校教育自己診断「学校は部活動に積極的」【79.5】→80% 「生徒会・委員会活動は活発」【71.2】→75%</p>	<p>ア. 年間遅刻者について、生徒の基本的生活習慣が安定してきたこと、そして生活指導部と各学年団の協力による粘り強い遅刻指導が効を奏して着実な成果をあげている。生活指導部と学年団の連携、粘り強い指導で 701【839】(3月末)に抑えた。(◎)</p> <p>その他の生徒指導について、昨年度より数値が若干低いことが懸念されるが、生徒の様子を見ると守るべき学校の規則、指導を理解し、その指導は適切と受け止め指導に従っている。ただ今後更に生徒の納得に届く指導力が求められる。(○)。</p> <p>生徒向け学校教育自己診断 「学校生活全体の指導は適切。」 72.2% 【78.7%】 「遅刻、頭髪、服装、原付等の指導は適切。」 60.3% 【67.1%】</p> <p>イ. 1年生のクラブ加入は1学期段階では74%に達した。生徒会や委員会活動を通じて、生徒の自主性、主体性を今後とも伸ばしたい。(◎)</p> <p>生徒向け学校教育自己診断 「学校は部活動に積極的」79.5%【79.5】 「生徒会・委員会活動は活発」75.2【71.2】</p>